

保幼小の接続期カリキュラム

～幼児期の教育と

小学校教育の円滑な接続を目指して～

(実践資料版)



平成31年3月

中央区教育委員会・中央区福祉保健部

目 次

I	保幼小の接続期カリキュラムについて	1
II	日常の指導場面で	3
	テーマ① コミュニケーション	4
	テーマ② 話を聞く態度	5
	テーマ③ 座り方	6
	テーマ④ 時間に関すること	7
	テーマ⑤ 食べること	8
	テーマ⑥ 身辺自立	9
	テーマ⑦ 規範意識の芽生え	12
	テーマ⑧ 運動・体力づくり	14

I 保幼小の接続期カリキュラムについて

中央区の保幼小連携の現状と課題

(1) 中央区の保幼小連携の現状

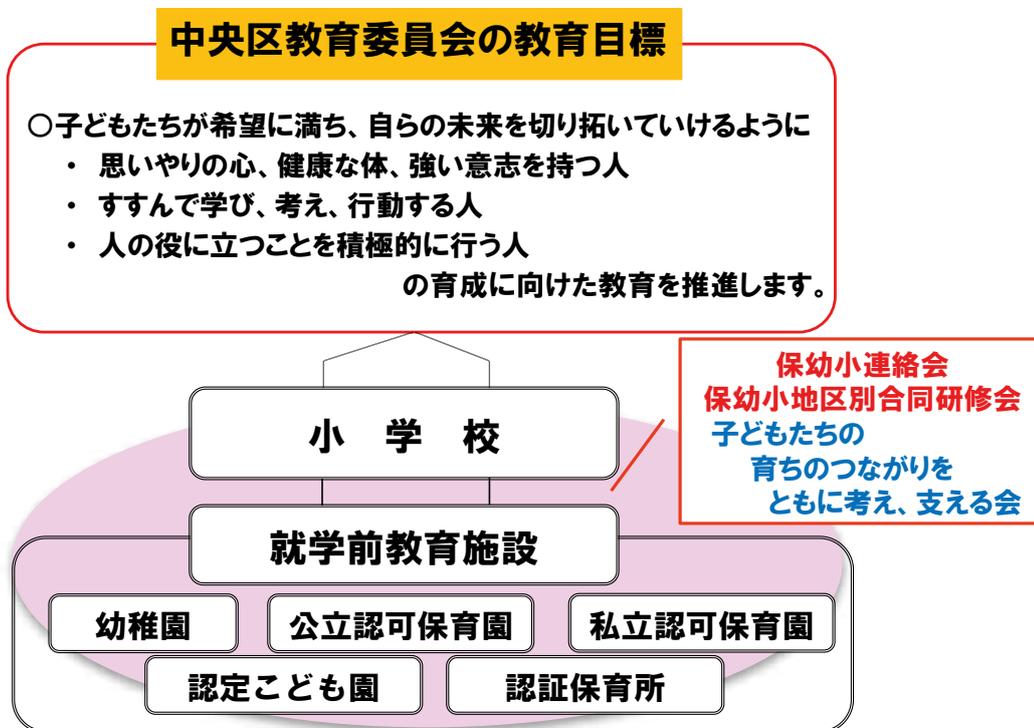
平成25年3月に策定された「中央区基本計画2013」では、子育てや教育について『子どもが輝く子育て・教育のまちづくり』を謳っている。それに伴い、平成27年3月に、教育委員会は「改訂中央区教育振興基本計画」を策定し、今後5年間で進める教育施策についてまとめた。

また、子ども・子育て支援法制定に基づき、福祉保健部では「中央区子ども・子育て支援事業計画」を策定し、「子どもの最善の利益が尊重され、子育てに喜びや生きがいを感じることができ、地域で安心して子育て・子育てができる環境が整備された、子どもも親も輝く社会の実現」を掲げた。

このような動きの中で、教育委員会事務局指導室と福祉保健部子育て支援課において、幼児期の教育についての基本的な考え方を共通の認識に立って進めようとしている。

本区の保幼小連携の実際として、まず、各保育所、こども園、幼稚園、小学校間の幼児・児童の交流活動のほかに、保幼小の管理職が区としての連携の在り方を考える「保幼小連絡会」を実施している。また、保幼小の保育士や教員が「保幼小地区別合同研修会」を行っている。

認可・認証、私立・公立を問わず区内の全ての保育所と幼稚園、小学校が連携していることが、本区の保幼小連携の特長と言える。



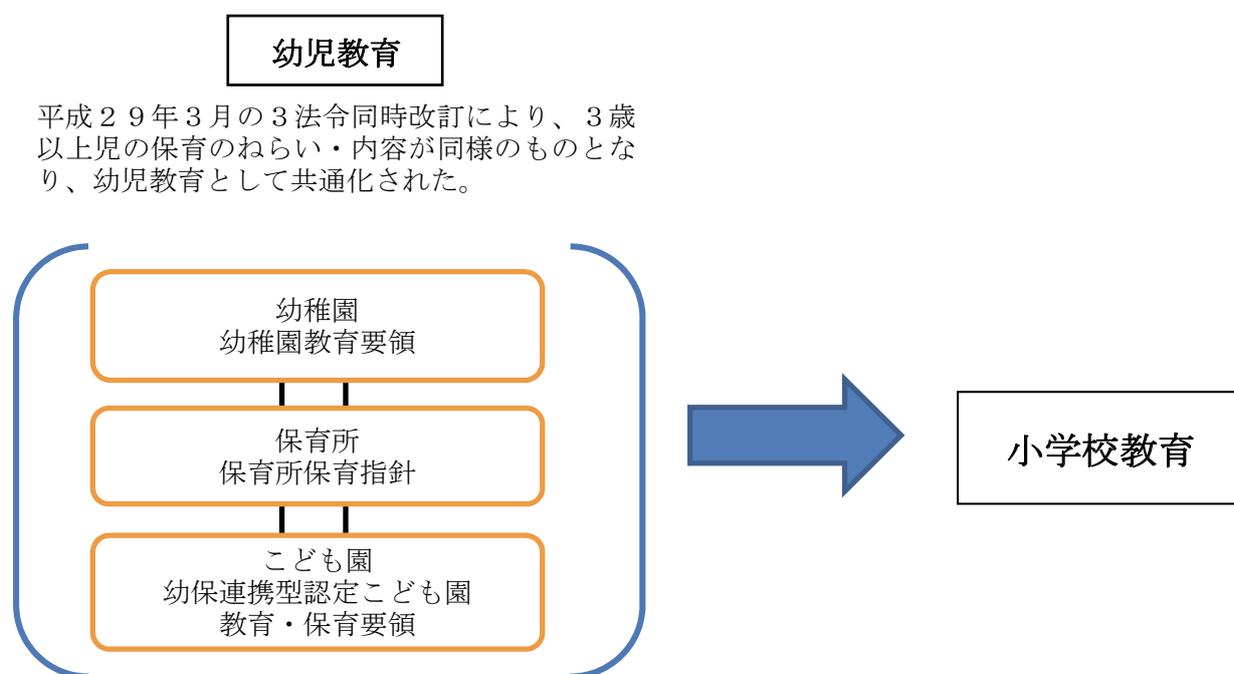
(2) 中央区の保幼小連携の課題

小学校においては、区内の様々な就学前施設から子どもたちを迎えている。しかし、保育所・こども園・幼稚園の教育方法や保育内容が多様であるために、入学後の落ち着かない状態がいつまでも解決されず、授業規律が成立しない状態へと拡大する、「小1問題」が見られることがあった。

そこで、教育委員会では、平成23年度に、幼稚園教育課程委員会が「幼児のよりよい育ちをめざして 中央区幼稚園アプローチカリキュラム」を、小学校教育課程委員会が「成長や学びのつながりを大切にー就学前教育と小学校教育との円滑な接続を目指してー」を作成し、円滑な接続を目指し取り組んできた。

しかし、作成から数年が経過し、就学前の施設の形態の多様化や園数の急増が進む中で、2つのカリキュラムを一つにつなげ、さらに保育所での教育の視点を盛り込み、接続に重点をおいたカリキュラムとしての改訂の必要性が高まった。

そうしたことから、幼児期の教育と小学校教育との接続をより円滑にすることを目的とし、主に接続期の教育方法について明らかにした「保幼小の接続期カリキュラム」を作成することとした。



*カリキュラム内の共通事項として、次のように考える。

<用語について>

使用している用語については、「就学前教育カリキュラム(平成23年3月 東京都教育委員会)」と統一し、次のようにした。

- ・接続期・・・年長5歳児の11月頃から小学校第1学年7月頃までと設定している。
- ・保育所や幼稚園等・・・保育所、幼稚園、こども園等、小学校就学前の保育・教育施設のことを指す。
- ・保育者・・・保育所や幼稚園等における、保育士及び幼稚園教諭のことを指す。
- ・クラス・・・学級、クラスのことを指す。

II 日常の指導場面で

こんなときに活用してください

- ・援助の具体策を知りたいときに
- ・子どもの経験の積み重ねを知りたいときに

どのような場面でも、指導のベースとなるのは、

教師・保育士と子どもとの信頼関係の構築です。

子どもたちがどのような環境下でも、のびのびと自分を
発揮するためには、まず教師・保育士が子どもとの信頼
関係を築くことが、大切です。



テーマ① コミュニケーション

新しい環境においても、自分の思いを安心して出し、円滑なコミュニケーションを図ることができるように、必要な指導のポイントを考えました。

5歳児での指導のポイント

- ・ 幼児が自分で考え、動こうとしている姿を見守りながら、必要な援助をする。
- ・ 担任以外の保育者、職員、地域の方々など様々な人と関わる機会をつくり、身近な人々に親しみをもてるようにする。

共通の指導のポイント

話をするとき、子どもの目線に合わせて話す。
大人との信頼関係をつくる。
笑顔で接しつつ、落ち着いた話し方で関わる。

小学校入門期での指導のポイント

- ・ 困ったことは、担任や養護教諭、専科教諭、主事などに話してよいことを知らせ、安心して生活できるようにする。
- ・ 担任は、名前を呼んだり、スキンシップをとったりするなど、丁寧に個々に関わっていく。
- ・ 休み時間には一緒に遊ぶようにし、様々な角度からの児童理解に努める。

大人との関わりについて

子ども同士の関わりについて

- ・ 少人数のグループ活動を意図的に取り入れ、自分の思いを話したり、友達のを聞いて聞いたりする場面をつくる。
- ・ グループやクラスで取り組む活動の中で、友達の下さしに気付いたり、一緒に活動する楽しさを感じたりできるようにする。

トラブルが起こったときに
「いつ」「どこで」
「だれが」「どうした」
を意識して、解決に向け共に考える。
子どもたちが自力解決できるように支援する。

遊びや生活の中で、
友達についての理
解を深められるよ
うにする。

- ・ 入学して一週間程度、隣の児童、前後の児童と簡単な自己紹介をし、名前やその児童についての理解を深める時間を設ける。
- ・ 生活科の「みんなともち」の単元を活用し、同年年の児童、養護教諭、専科教諭、主事などと触れ合う活動をする。また、2年生、6年生とペアやグループをつくるなどの活動を通して児童同士が関わり方を学べるようにする。

- ・ 自分の思いが言葉で伝えられない場合は、保育者が幼児の思いを聞き、言葉に表す手助けをし、相手に伝えられるように援助していく。
- ・ 困ったこと悔しかったことなどは必要に応じてクラス全体の話題に取り上げ、どうすればよいか、をみんなで作るようにする。

気持ちを伝えるはじめての一步
「ありがとう」
「ごめんなさい」
言葉で思いを伝えることの大切さや心地よさを繰り返し知らせる。

教師が伝え方や言葉遣いのモデルになる。
望ましい言葉の遣い方や伝え方をしている子どもを認め、褒める。

- ・ あいさつや正しい言葉遣いを国語科や生活科、道徳などの学習や、休み時間などを通して定着を図る。



言葉の伝え方、遣い方について

テーマ② 話を聞く態度

幼児・児童が話を聞けるようにするために、教師は話に集中させる工夫の必要があります。しっかりと話を聞くことのできる幼児・児童を育てるための指導のポイントを考えました。

5歳児での指導のポイント

- ・絵や写真など視覚的な教材を使って話す。
- ・幼児が話の内容を理解しやすい話し方、言葉遣いを心掛ける。



注目させるための工夫

共通の指導のポイント

話す時間は短く、短い文章で話す。

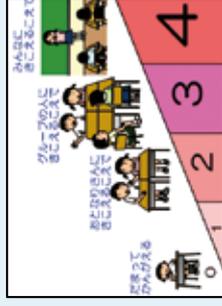
見通しがもてるように、何点話すかを、話す前に伝える。

言葉だけでなく、絵・実物・板書等を利用する。

一つの活動の時間は、15分程度で計画する。

小学校入門期での指導のポイント

- ・言葉だけでなく児童が注目する話し方をする（抑揚・声の大きさ等）。
- ・児童が発言できる場面をつくる。
- ・45分1教科とせず、複数の教科を組み合わせるなどして、話を聞く時間を少しずつ長くしていく。



☆授業時間の例と目安は、テーマ③参照

- ・話をしている人を見ながら話を聞くように促し、できている姿を認め、意識を高める。
- ・みんなと一緒に話を聞くときに椅子に座る機会を徐々に増やしていく。

相手を意識して聞くための工夫

聞き方がよい幼児・児童を褒める。



話を聞くときは、静かに聞く・最後まで聞くことを繰り返し伝える。

この内容を、少しずつ伝えていくといいですね。

- ・話を聞くときの合言葉を決め、実践する。

(例)



☆話を聞く姿勢については、テーマ③参照

テーマ③ 座り方

5歳児での指導のポイント

- ・ 幼児がイメージしやすい言葉で正しい姿勢を促す。
「お山座り」
「おにぎり座り」
「背中をピン」 など。

正しい姿勢の言葉

共通の指導のポイント

- 「合言葉」で、正しい姿勢を促す。
例) 「あしはぺったん、せなかはピン
おなかとせなかはグーひとつ」
(書写教科書より)
「グー、ペタ、ピン」
「おへそと机は仲良し」
「脚を抱えて膝ピタタンコ」

地域の保・幼・小で使っている言葉を情報交換できるといいですね！
子どもたちと合言葉を考えてみるのもいいかもしれません！

言葉から、小学校への期待をもつ。
例) お山座り → 体育座り

よい姿勢の幼児・児童を褒める。

小学校入門期での指導のポイント

- ・ 引き続き、場面に応じて、座り方を確認する。



保育所、こども園、幼稚園等

小学校

- ・ 年齢や実態に合わせて、話を集中して聞く場面意図的に設定する。
例) 絵本や童話の読み聞かせや一斉活動等
10～15分程度

着席時間の目安

- ・ 授業の時間や活動内容を柔軟に組み合わせる。

例) 活動時間の組み合わせと時期の目安

入学後3週間からGW明け頃

30分+15分、20分+25分など

6月以降

一単位45分間での授業の実施

(5歳児後半から小学校入学後約2週間頃)

一単位を15分程度とした活動を積み重ねる。

興味をもてる活動の精選、理解しやすい言葉や手順を配慮する。

生活科を中心に、他教科等と関連させながら、学習活動を実施する。

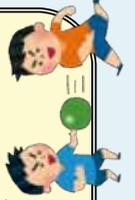
- ・ イメージやなりきって動く楽しさを基盤とした様々な遊びを経験する。(体幹の強化・背筋力の向上につなげる)
・ 個々に合った椅子を使用する。

姿勢保持のために

様々な遊びや動きや動きを経験し、全身の発達を促す。

- ・ 四肢をコントロールする遊び・・・ボール遊び 巧技台・跳び箱遊び 大型積木遊び スクーター など
- ・ バランスをとる遊び・・・鉄棒遊び マットを使った運動遊び など
- ・ 静と動を調整する遊び・・・かけっこ 鬼ごっこ 登り棒 など

園や学校での取組を保護者に伝え、家庭と連携を図っていくことが大切です！



- ・ 体育の授業を通して、体幹の強化・背筋力の向上を目指す(幼児期の運動遊びの流れを汲み、“～遊び、～ごっこ”の要素を取り入れる)。
- ・ 外遊びを推奨し、体を動かす機会をたくさんつくる(休み時間に教師も一緒に遊ぶ)。

テーマ④ 時間に関すること

小学校に入ると、時間を意識して動く機会が多くなります。活動に見通しをもち、時間を意識して生活をさせるための指導のポイントを考えました。

5歳児での指導のポイント

- ・ 1日の流れや活動の流れを絵や写真など視覚的な教材を示して伝える。
- ・ 「時計」が身近な道具となるよう、生活の場面で意識して取り入れる。

保育所、こども園、幼稚園等では、子どもの様子や活動の内容によって流動的に時間を変えています。

生活の見通しがもてる工夫

共通の指導のポイント

自分で気付いたり確認したりできるように、1日の流れや活動の流れを時計や絵表示・板書を用いて知らせる。



時間を意識して行動できたことを褒める。

小学校入門期での指導のポイント

- ・ 自分で見て確認できるよう、1日の流れはいつでも見られるような場に掲示・板書しておく(時間割表など)。

- ・ 自分のやりたいことを十分にできる時間を保障する。
- ・ 活動の始まりや終わりの時間を伝え、時計を見て行動する経験を積み重ねる。
- 例) 「時計の長い針が“〇(数字)”になったら片付けを始めましょう。」
- 「時計の長い針が“〇(数字)”までに片付けを終わらせましょう。」
- ・ 活動と活動の間どんなことをしたらよいか、どんなことが必要かわらせる(トイレ・水分補給等)。



活動と活動の間(保育所・幼稚園)や、休み時間(小学校)に、何をすればよいか、板書などを利用して分かりやすく伝えていく。

活動の始まりや終わりの時間を示して、見通しをもたせ、その時間までに必要なことができるようにしていく。

例) 「手洗い、うがい、トイレを済ませて時計の長い針が“〇(数字)”に集まりましょう。」

- ・ 決まった時刻で活動が始まったり終わったりすることに慣れるように、繰り返し指導する。
- ・ 時間割表を見て活動できるように声掛けしていく。
- ・ 休み時間に何をすればよいか、自分で行動できるように声掛けをする(トイレ・水分補給・次の時間の準備等)。



保育所や、こども園、幼稚園等には、休み時間はなく、小学校で初めて経験します。

時間の使い方の工夫

テーマ⑤ 食べること

給食＝食べることにに関しては個人差が大きく、全体への指導と共に個別指導も必要となってきます。また、小学校では時間を意識して食べることも必要です。必要な指導のポイントを考えました。

5歳児での指導のポイント

- 栽培、収穫、調理、食事を通して、様々な食材への興味・関心、食べ物を大切にしている気持ちを育てる。
- 児童との交流給食を計画し、小学校の給食への不安を取り除き、期待をもてるようにする。

共通の指導のポイント

食材への興味をもてるように、視聴覚教材（栄養素の表など）を活用する。

栄養士や調理師などと連携し、給食指導（食育）を行う。

保育所や小学校の給食のレシピを活用し、保護者に発信する。

- 中央区HP→子育て・教育→保育園・こども園の給食
- 中央区HP→子育て・教育→学校教育→学校給食

小学校入門期での指導のポイント

- 校内探検を活用しながら実際に給食を作る場面を見せたり、栄養士が献立を立てていることを知らせたりする。
- 献立に使われている食材について、食事をしながら分かりやすく説明する。

- 幼児の実態に応じて、食べられる量を調節して、完食を目指す。

量を調整して完食する嬉しさを感じられるようにする。

完食する経験を積み重ね、自分の食べられる量が分かるようにする。

幼稚園の弁当は、給食を見越して白飯をつめてもらったり、箸を使って食べるおかずを入れてもらったりするなど保護者へ協力を求めていくことも大切です。その中で、「自分の力で食べる経験」を積み重ねていきましょう。

- 4月当初は少なくとも配膳し完食ができたら褒める。
- 完食できなくても、頑張ったことを認め、次に繋げる。



食事の準備から片付けを意識できるように

- 時計の数字を使って目安の時間を伝え、食事や片付けの時間を意識して生活できるようにする。
- 遊びを通して、箸の使い方などを学ぶ。

食事をしながら、箸の使い方やテーブルマナーをその都度指導する。

食べ終わった幼児・児童は、静かに待つようにする。

食事時間の目安を20～25分間とし、食べ始める前に時間を知らせておく。



- 4月中旬くらいまで、10分程度を「もぐもぐタイム」として、話さずに食事に集中する時間を設ける。
- 食事の終わりの時間を意識しながら、食事ができるように促す。
- 事前に給食のオリエンテーションを行い、配膳の仕方や給食のマナーを学ぶ。

テーマ⑥

身辺自立

自分で物の管理や身辺整理ができるなど自立することで、自分が“やりたい”ことが実現できたり、自信をもって生活や学習に取り組んだりできるように指導のポイントを考えました。

5歳児での指導のポイント

- 自分の物を管理する場所が分かるように、名前表示をする。
例) 自分でロッカーや引き出しの位置を決める。
例) マーク表示から名前表示に移行する。
- 個人で管理するものをあえて準備し、意識をもたせる。(クレパス、はさみ、短縄 等)
- 個人の整理箱がある場合には、幼児に置き場所を決めさせる。
- 週末に引き出しの中を整理させるなど、定期的に時間を設け、整理の仕方を知らせる。

< 整理の様子 >



共通の指導のポイント

自分の場所（靴箱、ロッカーなど）が分かるような表示を付ける。

自分の物を紛失した場合、そのままにしないように、自分で探す、教師と探す、友達と探すなど、対応について自分で考えさせる。

実態に応じて子ども自身に困り感を感じさせ、物を管理する必要性を感じさせる。

自分の物に意識をもてるように保護者に対し、所持品の準備を子どもと一緒に、名前を記名することを促す。

小学校入門期での指導のポイント

- 自分の場所（靴箱、ロッカーなど）が分かるように、名前と出席番号を表示する。
 - 入学当初は、道具箱や上履きの入れ方などを表示する。
- < 道具箱表示 >
- 
- 道具箱を整理する時間を設け、整頓できるようにする。整理する時間は、学級の実態に合わせて、毎週末、月1回など調整する。

5歳児での指導のポイント

- ・誰が見ても、「どこに」「どうやって」片付けるとよいか分かるように、表示をする。

<ままと道具>



<運動用具>



- ・片付けに取り組んでいる幼児を、その場やクラス全体の前で認め、意識付けをする。
例)「○○さんが、セロハンテープ台を揃えてくれたから、次にみんなが使いやすいね。」などと、具体的な姿を認める。
- ・自分たちの生活の場を自分たちでつくっていく気持ちを育む。
- ・クラスの一員であるという意識をもてるようにし、全体の物も自分で管理しようとする気持ちを育む。

共通の指導のポイント

遊具や用具の置き場を決めておく。

自分で使った物は自分で戻す。

「次に使いやすい」「どこにあるか分かりやすい」など、みんなが心地よく生活できるように整頓をするという意味付けをしながら繰り返し伝える。(きれいにすると気持ちいいね。)

物が紛失した場合にはクラスのみんで探したり、考えたりする時間を設け、物の管理の仕方について全体で意識できるようにする。

クラスの遊具や用具が分かるように、クラスカラーや学級名を記しておく。

小学校入門期での指導のポイント

- ・クラスの用具（ボール・長縄など）を、入る場所を固定し使ったら戻せるようにする。

<用具置き場表示>



- ・「本整理係」「ぞうきん整理係」など、係を決め、その都度、必要性を感じさせながら促す。

→次第に、係の児童から学級の児童に整頓を促すようにしていく。

<当番表>



5歳児での指導のポイント

- ・「もったいないばあさん」などの絵本を活用し、物を大切にしようとする気持ちを育てる。
- ・保育者が、掲示物をきれいに貼るなど環境を整え、感性を磨く。
- ・保育者が、モデルとなる動きをする。

例) 紙が床に落ちていた場合

「紙が落ちているから拾おう。」とつぶやいたり
「落ちていたままだとどうなるかな？」と問いかけたりする。

- ・写真や絵を活用しながら、リサイクルの意味を知らせる。(紙パックがトレイレットペーパーに生まれ変わる。)

- ・物を大事にしたり丁寧に扱ったり、リサイクルボックスを活用したりしている姿を具体的な言葉で認める。

- ・リサイクルボックスを設置し、紙や材料などをすぐに捨てず、製作活動の材料として再利用できるように工夫する。

例) 一部分使われている紙を、使いやすい大きさに保育者が整える姿を見せ、リサイクルボックスに入れる。そこから使っているように、声を掛ける。

<リサイクルボックス>



<再度、使えるように>



共通の指導のポイント

絵本や教科書を活用し、整頓したり、物を大事に扱ったりすることが「気持ちがいい」と感じられるようにする。

物を大切にしている姿を認め、具体的な言葉で知らせることで、みんなが物を大切にしている気持ちをもてるようにする。

リサイクルボックスを設置し、「まだ使える」「もったいない」という気持ちをもてるようにする。

小学校入門期での指導のポイント

- ・物を大切にしようとする気持ちを育てる。
- ・物を大切にしている児童を紹介したり、認めたりする。

例) 「落とし物を拾ってくれてありがとう。」

〇〇さん、助かったね。」

「〇〇さんが、倒れていた本を揃えてくれて本が選びやすくなったよ。」

- ・古紙のリサイクルボックスを設置し、リサイクルの意識を高める。<リサイクルボックス>



- ・掃除用具等が整えられた写真を掲示し、言葉だけでなく視覚化することで、整理の仕方について分かりやすくする。

<掃除用具の整え方>



テーマ⑦ 規範意識の芽生え

共通の目的に向かって、友達や互いのよさを認め合いながら協力してやりの遂げる充実感を味わえるために必要な指導のポイントを考えました。

5歳児での指導のポイント

• できたことや、やろうとする気持ちを認め、よい行動に気付けるようにする。

例) 「廊下を歩いてトイレまで行けたね。」
「当番の仕事が、最後までできたね。」

• 先回りをして言い過ぎず、「なぜ」そうするのかを幼児と一緒に考える。

例) 「それはいけないよ。」というのではなく、子ども自身が「こうすればよかった。」と思える声掛けをして、子どもが考える部分を残す。

* 廊下を走っていたA児と保育室からでてきたB児がぶつかってしまった場面

保育者：「Aさん、どうしてぶつかっただんらうね。」

A 児：「走っていたから。」

保育者：「そうだね、走っていると友達にぶつかってしまうよね。ぶつかるとどうかな？」

A 児：「けがしちゃう。」

保育者：「けがをしたらAさんもBさんも痛いね。」

どうしたらよかったかな？」

A 児：「歩けばよかった。」

保育者：「そうだね。歩くときがをしないね。」

• 幼児が遊びの場をつくるときには、周りの状況を見て安全に場を設定できるように気付かせたり、一緒に設定したりする。

例) 「部屋の入口に家を作ったら、人が通れるかな？」
「お客さんはどこで待ってほしいかな？ 場所がないね。どうしようか？」

共通の指導のポイント

「なぜそうするのか」を、子どもと一緒に考える。

見通しをもって行動するために、その必要性(「～だから～する」)を考えさせ、行動できるようににする。

クラスルールを子どもと相談しながらつくり、必要に応じて簡単な言葉やイラストで掲示する。

状況に応じた行動を認め、周囲にもよい行動に気付かせ

小学校入門期での指導のポイント

• できたことを認め、周りの児童たちに知らせる。

例) 「〇〇さん、姿勢がいいね！」

「〇〇さん、よく話を聞いているね！」

• できなかったときには、「こうしたらほうがいいよ」と言うだけでなく、自分自身を振り返ることができると言葉掛け、よいことや悪いことや、どうすることがよいのかを考えられるよう導く。

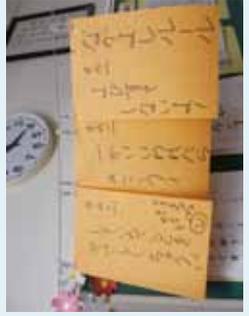
例) 「いま、どうすればいい？」

「いま、何をするとき？」など、本人の考えや言葉を引き出す声掛けをする。

• 必要なルールを知らせるときに、児童がルールの必要性を感じて、守ることができるようにする。

• みんなが気持ちよく生活するために必要なルールであることが分かって行動できるようにする。

<学級のルール>



<廊下の歩き方>



5歳児での指導のポイント

- ・自分たちで生活の仕方や決まり、ルールなどを考え、守っていく機会を設定し、守ることでみんなが気持ちよく生活できることを考えられるようにする。
- ・友達と一緒に生活や遊びをつくり出す中で、必要に応じて新たなルールをつくり、自分たちで考えたルールだからこそ、守って生活できるようにする。
- ・友達の話に耳を傾け、気持ちを止めたり、幼児自身が解決策を見い出せるような働き掛けをしたりする。
例) 「～したらだめでしょ。」「ごめんね。」「いいよ。」など否定、謝る、許すの言葉のやりとりだけで終わらせない。
「○○さんはこういうことを言いたかったのかな？」と論点を整理したり、「○○さんは～したかったんだよね。」と気持ちを汲み取ったり投げ掛けたりする。
例) 友達がどのような思いであったか、一緒に考えたり、気付けたりする。
- ・トラブル時に自分のこととして考えられるように問い掛ける。
例) 「そういうことをすると、どうなるかな？」
「自分がされたら、どんな気持ち？（どう思う？うれしい？悲しい？）」
- ・年下の幼児が喜ぶ姿や年長児に憧れている姿を意識的に取り上げて伝え、他の人の役にたつ喜びを感じることで、満足感や自信につなげていく。

共通の指導のポイント

子どもたちが意見を出し合う中で遊びがより楽しくなることを実感できるようにしていく。

友達と遊びを続けるために必要なルールや、気持ちよく生活するための決まりを共有していく。

教師が伝え方や言葉遣いのモデルになり、望ましい伝え方・言葉遣いをしている子どもを認める。

子ども同士が関わりながら、自分の思いを考え直したり、友達の意見に同意したりする、心の変化に教師が気付き、共感する。

自分の気持ちに折り合いをつけながら、力を合わせる経験ができる活動を行っていく。



小学校入門期での指導のポイント

- ・人との関わりの中で、相手の考えや気持ちがあつたのかを問い掛ける。
例) 「○○さんは、どう思っただろうね？」
- ・困っている友達に声を掛けたり、手を差し伸べたりしている行動を認める。
例) 「○○さんは助かったと思うよ。」
「きつと、○○さんは喜んでいいると思うよ。」
「先生だったら、うれしいな。」
- ・道徳科の「親切・思いやり」の学習を活用し、友達や身近な人を思いやりの心情を育てる。
例) (授業の中で自分自身を振り返る場面において)
「友達や年下の子に、優しくできたことはありませんか。それ、どんなことですか。」などと、相手の気持ちを考えられる発問をする。
- ・6年生との交流を通して、やってもらったうれしかった気持ちに共感し、友達にもしてあげようとする心を育む。



テーマ⑧ 運動・体力づくり

幼児期に楽しみながら多様な動きのある遊びを経験することで、児童期以降も多様な動きの獲得や意欲を高めることにつながる指導のポイントを考えました。

5歳児での指導のポイント

- ・取り組んでみたいと思えるような意欲を喚起したり、充実感や満足感を味わえるようにしたりする。
例) 登り棒や雲梯に色の違うビニールテープを付け、色を目標にして取り組めるようにする。
①竹馬や縄跳びの跳び方を示したイラストを提示する。
②幼児の動線に考慮し廊下や園庭にラインを引いたり、ケンパーなどの足形を付けたりする。
③天井から音が鳴るボールを下げたジャンプコーナを設定する。
- ・自分の課題に向かって挑戦できるように、挑戦意欲をかき立てる環境を設定したり、機会を設けたりする。
例) ①チャレンジカード（縄跳び、鉄棒、ボール等）をつくるなど、課題をもって取り組めるようにする。
②チャレンジタイムを設定し、クラス全体で取り組む機会を設ける。
- ・運動用具を取り出しやすいように工夫する。
例) ①幼児の目に付きやすい場所に設定したり、使いやすいうように整えたりする。
②幼児とともに、運動用具の環境整備を行う。

＜チャレンジカード＞

- ・家庭と連携する。
例) 園内での取組や家庭でもできる遊びを紹介する。
(ホワイトボード、写真、園だよりクラスだよりの活用)



共通の指導のポイント

興味をもてるような遊具の置き方、提示の仕方を工夫する。

一緒に動きながら、思わず体を動かしたくなるような雰囲気をつくり、体を動かす心地よさ、楽しさを共感できるようにする。

個々の動きを認め、意欲を引き出せるようにする。

小学校入門期での指導のポイント

- ・運動への興味・関心を高める。
例) ①体育の授業で取り組んでいる8の字跳びの記録を放送で流したり、玄関に掲示したりする。
②△△ランドや忍者などテーマをもち、イメージをもって取り組めるようにする。
・意欲や興味をもてるような環境を設定する。
例) ①集会などの時間を活用して、体育的活動ができるブースをつくる。
②点数を書いた的を準備し、ボールを投げたり蹴ったりしてゲーム性をもたせる。
③形、大きさ、重さが違う様々なボールを準備する。
- ・運動に関する個人の課題を明確にし、挑戦できるようにする。
例) ①チャレンジカード、検定表の活用
②ボードや掲示等を活用
③副読本の活用
- ・学級で遊びの紹介をする。
例) 遊びや運動のやり方について、掲示物で知らせる。
- ・各自の取組を互いに知らせる機会を設け、刺激し合って個の意欲を引き出ししていく。

自発的に体を動かして遊ぶことができるように

5歳児での指導のポイント

・適切な遊具を揃えたり、遊ぶ機会を設けたりする。

- 例) ①竹馬…バランス感覚
 ②鉄棒 (つばめ、ブタの丸焼き、布団干し等)
 …つかむ経験、体を支える経験
 ③スキップ、ズームステップ
 …リズム感を養う。

・ビームや巧技台で不安定さがある環境を設定し、バランスをとるための体の使い方や力の入れ具合を知らせる。

*運動用具がない場合でも、類似の経験ができる環境を構成する。

- 例) ①はしごと巧技台で雲梯を構成する。
 ②固定遊具と綱を組み合わせ不安定な場や、よじ登る経験ができる場を設定する。
 ③逆さ感覚を経験できるような、運動遊びを取り入れる。
 (くまさん歩き)
 ④縄を掴む、引っ張り合う遊びを取り入れる。(綱とり)
 ⑤二人組の触れ合い遊び (ぎったんばっこん)

・全身を使った運動がより滑らかに巧みになる時期であるので、基本的な動きを組み合わせた遊び、遊具を用いた複雑な動きが合まれる遊び、様々なルールのある遊びを取り入れる。

- 例) ①手つなぎ鬼
 →友達と手をつなぎながら動きや速さを調整する
 ②巴鬼<グー・チョキ・パー鬼>
 →3つの関係性が分かり、2方向を見ながら動く
 ③図形鬼
 →動ける範囲の中で、相手を見ながらタッチする
 ④ボール回し鬼<ボールを持っていてる人をタッチする>
 →ボールと人を見ながら動く



共通の指導のポイント

発達に応じた動きの適時性を捉え、経験しにくい動きや生意思図的に遊びや生活に取り入れる。

- ・転がる、もぐる、こぐ、入り込む、掘る (土や砂)

一緒に遊びながら様々な体の動かし方を知らせていく。

安心して取り組めるように、個に応じて段階を追って支援し自信や次への意欲がもてるようにする。

小学校入門期での指導のポイント

・各学校のマイスクールスポーツの取組を生かし、発達や課題に応じた取組を行う。

- 例) ①年間計画を立案し、発達に応じた活動を行う。
 ②学期ごとに「持久走週間」「縄跳び週間」などを設定する。

・経験値を増やす。

- 例) ①児童同士で遊びが進められるような簡単な遊びを教える。
 ②体を動かす機会を意図的に設ける。
 ③体育の授業で運動用具をサーキット形式に配置し、様々な動きを経験できるようにする。
 ④条件を変えた場を複数設ける。
 (マット・跳び箱、鉄棒 など)

・指先の力を付け、ボールなどの運動用具を適切に扱えるようにする。

例) 様々な形状のボールを投げたり、持ったりする活動を取り入れる。

・易しい運動遊びを楽しく行えるようにする。

- 例) ①易しい動きから条件を変化させたり、競争させたりして様々な動きに取り組みながら動きのレパートリーを増やす。
 ②動き方がイメージできるように図や写真などの掲示物を工夫する。
 ③できた、できないで判断するのではなく、運動そのものを楽しめるような雰囲気づくりを工夫する。
 ④教師からの指示は明確にし、説明を少なくテンポよく授業を進める。
 ⑤動きのコツとなるポイントを取り上げ学級全体で共有する。

発達に応じた動きを経験するために

5歳児での指導のポイント

- ・友達と積極的に体を動かさず運動に取り組む、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶことができるようにする。
例) ①必要に応じてルールを自分たちで決めていく機会を設ける。
②勝敗のある遊びを導入する。
③クラス全体で取り組む時間を設ける。
- ・協力することで楽しさが膨らむような活動を選び、友達と一緒に動く楽しさを感じられるようにする。また、その思いをフィードバックする。
例) ①助け鬼
助けてくれる人がいる、助けたい人がいる関係がある。
挟みうちなどの作戦を立てる。
②チーム対抗、チーム間の協力が必要な活動を取り入れる。

友達と一緒に動く楽しさを感じられるように

共通の指導のポイント

生活の様々な場面で、友達の違いに注目できるようにする。

活動後に、振り返りの時間を設け、感想や友達の良い動きを引き出す。



小学校入門期での指導のポイント

- ・幼児期に経験していたルールのある遊びを取り入れる。
例) ①ドッジボール
②鬼遊び（一人鬼、手つなぎ鬼、子増やし鬼）
- ・みんなで動くことが楽しい雰囲気をつくる。
例) BGMを活用する。
- ・ペアでの活動を取り入れる。
例) ①体ほぐしの運動遊び
→「なべなべこそぬげ」「きゅうりのしおもみ」
②動きづくり
→「おしくらまんじゅう」「手押しずもう」
③マット遊び→「手つなぎ転がり」
④リレー遊び→「障害物リレー」
⑤表現リズム遊び

- ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
例) ①正しい遊具の使い方を知らせる。
(鉄棒の握り方、縄の扱い方 等)
②安全な遊び方を知らせる。
(どの場所で遊びを展開したらよいか)
③運動用具の活用の仕方を遊びの中で提案したり、子どもを考えを引き出したりする。(縄、ボール、巧技台)
④遊びの中で遊具や用具の配置に変化を付け、動きにも変化を付ける。

遊びや経験の幅を広げられるように

経験の幅が広がる遊びや、動きを日常的に取り入れる。

活動内容を工夫し、運動量を確保する。

- ・固定施設を使った運動遊びでは、使い方を知らせるとともに、ジャングジムや雲梯、登り棒、肋木などで、いろいろな登り下りや懸垂移行、渡り歩き、逆さ姿勢をとるなど、体の動かし方を知らせる。
- ・運動用具の使い方を知らせ、安全に活用できるようにする。

指導のポイント

- 経験させたい動きは何か、ねらいをもつ
- 経験している動きの把握をする
- 幼児期と児童期、動きの関係性を理解する

幼児期に身に付けておきたい動きと小学校の体育とのつながり

幼児期に習得しておきたい
「36の基本的な動き」
（「幼児期運動指針実践ガイド」＜日本発
育発達学会編＞より）

**体のバランスをとる動き
（平衡系操作）**
たつ たつ・たちあがる・かがむ
しゃがむ・すわる
おきる ねる・ねころぶーおきる・おきあがる
まわる まわる・まわす・ころがる・ころがす
わたる わたる・とんであるく
あるいてわたる・はしってわたる
ぶらさがる
うく まっすぐうく・まわってうく
あおむけにうく・うつぶせにうく
さかだちする
のる のる・のりまわす
くむ つみかさなる・くむ・おんぶする

**体を移動する動き
（移動系動作）**
あるく あるく・ふむーとまる
はしる はしる・かける・おいかける
にげるーとまる
はねる はねる・スキップする・ホップする
ギャロップする・2ステップする
すべる
とぶ とぶ・とびつく・とびあがる、とびこす
のぼる のぼる・はいのぼる・よじのぼる
とびのーおりる・すべりおりる・とびおりる
はう
くぐる くぐる・くぐりぬける・はいる・はいり
こむ
およぐ およぐ・もぐる

**用具を操作する動き・
力試しの動き（操作系動作）**
もつ かつぐ・もつ・もちあげるーおろす
ささえる
はこぶ はこぶ・うごかす
おす たおす・つきおとす・おす・おしだす
おさえる おさえる・おさえつける・
もたれる・もたれかかる
こぐ
つかむ つかむ・つかまえる
あてる あてる・あたる・ぶつける・ぶつかる
とる とる・とめる・うける・うけとめる
わたす
つむ つむ・つみあげるーくずす
ほる ほる・けずる
ふる ふる・ふりまわす
なげる なげる・なげあてる・あてる・ぶつける
うつ うつ・うちあげる・うちとばす・たたく
ける ける・けりあげる・けりとばす
ひく おこす・ひっぱりおこす・ひく・ひっぱり
たおす たおす・おしたおす

遊びの中で経験している動き

はう
くぐる

なげる
あてる
かわす

はしる
とまる
かわす

ころがる
まわる・ねころぶ
たちあがる

なげる
あてる
つむ
つみあげる

とぶ

はしる
おいかける
つかまえる
（しっぽを）とる
かわす

ひく
ひっぱり

ほる・しゃがむ
（水や砂を）はこぶ

おす
おしだす
つかむ
ひく

ける
けりとばす
あてる

つかむ
ぶらさがる

ささえる
よじのぼる

とぶ
とびあがる

つかむ
しゃがむ

なげる
つかむ
とる
かがむ

小学校の体育 運動領域「体づくり運動」のつながり
とその例示
（小学校学習指導要領解説体育編より一部抜粋）

○体のバランスをとる運動遊び（例示）

- 片足を軸にして、右回り、左回りに回転したり、跳び上がって回ったりすること。
- 足の裏を合わせて座り、両手で足先を持ち、転がって起きること。
- 友達と肩を組んだり背中を合わせたりして、立ったり座ったりすること。
- しゃがんだ姿勢で相手のバランスを崩したり、相手にバランスを崩されないようにしたりすること。

○体を移動する運動遊び（例示）

- 大きな円を右回り、左回りに這ったり、歩いたり、走ったりすること。
- 横や後ろ、斜めに走ったり、曲線やジグザグ、クランクなどの形態の異なる走路や細い走路を走ったりすること。
- 両足や片足でいろいろな跳び方で跳んだり、空中で向きを変えて足から着地したりすること。
- 両足または片足で、リズムや方向、高さを変えてはねること。
- 無理のない速さでかけ足を2～3分程度続けること。

○用具を操作する運動遊び（例示）

- ペアで向かい合ったり、的を決めたりして、ボールやフープを真っ直ぐ転がすこと。
- 長なわで大波・小波をしたり、回っているなわをくぐり抜けたりすること。
- 友達と背中などでボールをはさんで、いろいろな方向に運ぶこと。

○力試しの運動遊び（例示）

- すもう遊びで相手を押し出したり、引き合い遊びで引き動かしたりすること。
- なわを引いたり、緩めたりしながら力の出し入れを調整し、力比べをすること。

保幼小連携推進委員会

委員長	月島幼稚園	園長	上竹陽子
副委員長	月島第三小学校	校長	小野内雄三
副委員長	日本橋保育園	園長	中川原紀代子
委員	明石町保育園	副園長	森優子
	桜川保育園	主査	刈谷由紀子
	人形町保育園	主査	澤田由美
	勝どき保育園	主査	齋藤洋子
	久松幼稚園	主任教諭	深瀬良子
	月島第一幼稚園	主任教諭	渡邊大二郎
	有馬幼稚園	教諭	川島裕子
	豊海幼稚園	教諭	萩原有紀
	中央小学校	主幹教諭	新井民枝
	京橋築地小学校	主任教諭	桐谷友紀
	有馬小学校	主任教諭	奥谷早苗
	佃島小学校	主任教諭	小澤ほなみ

事務局

福祉保健部	子育て支援課	課長	溝口薫
		保育指導係主査	瀬田優子
教育委員会事務局指導室		指導室長	吉野達雄
		教育支援担当課長	細山貴信
		統括指導主事	村上隆史
		統括指導主事	上原史士
		指導主事	清水浩和
		指導主事	平野収
		指導主事	中村真紀絵
		指導主事	和田正典
		幼児教育担当専門幹	中島由美子